

国語科「読むこと」における授業づくりのポイント

1 国語科における主眼について

国語科では、授業の主眼を二つの観点から書きます。一つは、内容【思考力、判断力、表現力等】です。二つは、その内容を捉えるための見方や思考方法、活動【言語活動】を書きます。

○ 主眼の作り方の例

- 主眼 1 (登場人物の気持ち) ~が、(変化) ~することを具体的に想像することができるようにする。
 2 (着目する叙述) ~を基に、(思考方法) ~して~について話し合うことができるようにする。

【第4学年「まいごのかぎ」主眼1の例】

(1) 中学年「読むこと」の系統を確かめる

3年生1学期①	3年生1学期②	3年生2学期	3年生3学期
気持ちを確かめる	気持ちの変化を考える	気持ちの移り変わりを考える	気持ちの変化、性格を考える

→中学年では、「気持ちの変化」「性格」「情景」について考えることが学習内容である。教材の特徴や教科書に記載されている「単元名」や「たいせつ」を参考に系統を明らかにする。

(2) 学習指導要領解説(111ページ 一部抜粋)内容の焦点化

登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像するとは、場面の移り変わりとともに描かれる登場人物の気持ちが、どのように変化しているのかを具体的に思い描くことである。登場人物の気持ちは、場面の移り変わりの中で揺れ動いて描かれることが多い。そのため、複数の場面の叙述を結び付けながら、気持ちの変化を見いだして想像していく必要がある。また、どの叙述とどの叙述とを結び付けるかによっても変化やそのきっかけの捉え方が異なり、多様に想像を広げて読むことができる。

- 気持ちとはどのようなことかな？
→ある出来事に直接関わったときに抱く、嬉しい、悲しいといった感情、思ったこと、考えたことのことである。
→登場人物の言動、地の文の叙述を基に捉えていく。
- 気持ちの変化
→複数の場面を通して、「○○の気持ちから○○の気持ちへ」と考える。

(3) 教材や単元に合わせて内容を具体化する

本時学習場面において、前時までの場面からどのように変化したのか教材文から具体的に考える。

例) 主眼1：りいこは、落ち込んでいたが、前向きな気持ちに変化した。

→「前向きな気持ち」という内容の言葉を子供が具体的に想像できるようにする。

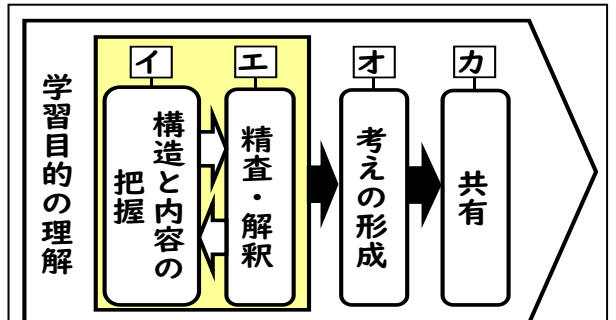
2 国語科「読むこと(文学的な文章)」における単元指導計画について

国語科「読むこと」では、登場人物の気持ちや人物像、場面の様子を捉え、その登場人物や物語全体について自分がどのように考えたのか単元を通して自分の言葉でまとめていくことが大切で

国語科「読むこと」の単元指導計画では、「きちんと読めるとは、自分が読んだこと、読んで考えたことを他者にも伝わるように表現すること」と意識させて、学習課題を設定することが必要です。その上で、物語全体の内容を把握したり、登場人物や場面の様子について詳しく想像したりしていきます。この過程を大切にしながら、登場人物や物語全体について自分の考えを形成していきます。現在の国語科では、「考えの形成」の学習過程を重視するように求められています。

以下は、発達の段階に応じた学習過程です。

低学年	低学年は、内容の大体(あらすじ)を把握した上で、一つずつ場面を追いながら登場人物の行動を具体的に想像していくことが大切です。具体的とは、表情や口調、様子、行動の理由のことです。
中学年	中学年は、一場面ずつを読み進めるのではなく場面を結び付けることが大切です。そのため、場面を確認しながらも、子供の問いを基に場面を往還しながら読み、物語全体を通した変化を想像させます。
高学年	高学年は、中学年と同様に場面を往還させながら読み進めさせます。中学年との違いは、始めから物語全体を通して、人物像や人物関係、全体像を想像させていきます。



【国語科「読むこと」における単元構成】

3 国語科「読むこと」における一単位時間の学習過程について

国語科「読むこと」では、子供自らが学習計画を基に本時の課題意識をもち、既習から見直しをもって考えをつくったり、友達と話し合いをしたりして、自分の解釈を見直して再構成するという問題解決的な学習過程を大切にします。

○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT活用）

段階	学習活動と予想される反応	具体的支援 ※ICT活用				
導入	<p>○ 前時までの進捗状況や学習計画を振り返り、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 前時までの学習 ← 振り返り → 学習計画 </div> <p>めあて ○○は、どのように…したのかについて話し合おう。</p>	<p>○ 本時学習のめあてをもつことができるように、学習者用端末に保存している前時までの解釈や学習計画を振り返る場を設定する。</p>				
展開	<p>【見直し】 □登場人物の言動、様子、情景 □比較、仮定、関係付け(叙述、場面、人物)</p> <p>○ 見直しを基に、既習を振り返ったり、友達と話し合ったりしながら自分の考えをつくる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">主張 (気持ちの変化等)</td> <td style="width: 50%;">叙述とわけ</td> </tr> <tr> <td>・私は、○○が…と思う。 ・○○は…と思います。</td> <td>わけは、「(叙述)」とあって、□□だからです。</td> </tr> </table> <p>○ 友達と話し合ったり、全体で考えを共有したりして、解釈を深め、自分の考えを再構成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分の考え ← 比較、分類 → 自分の考え </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 考えを深めるための主発問 (主眼にせまる発問) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 自他の考えを整理して、自分の考えを再構成する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> まとめ ○○は…して□□になっている。 </div>	主張 (気持ちの変化等)	叙述とわけ	・私は、○○が…と思う。 ・○○は…と思います。	わけは、「(叙述)」とあって、□□だからです。	<p>○ 自分の考えをつくることができるように、本時学習の見直しを前時の見直しと比較して共有する。</p> <p>○ 考え、根拠、理由付けの順で考えをつくることできるように、必要に応じて学習支援シートを配付する。</p> <p>○ 全体で整理した解釈を深めることができるように、登場人物の言動の理由や人物関係や場面の变化について発問する。</p> <p>○ 自分の解釈を再構成することができるように、他者の考えを共有する。</p>
主張 (気持ちの変化等)	叙述とわけ					
・私は、○○が…と思う。 ・○○は…と思います。	わけは、「(叙述)」とあって、□□だからです。					
終末	<p>○ 学習内容を振り返り、本時学習のまとめをする。 ・○○の視点の友達と話して、解決できた。</p>	<p>○ 次時の見直しをもてるように、の二つの観点を提示する。</p>				

4 「読むこと」における ICT の活用について

国語科では、「学習計画(問い)」、「解釈」、「振り返り」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を以下の三つの機能を用いて活用します。

- 保存機能…前時までの学習を振り返り、学習課題や自分の考えの形成過程を把握できるようにする。
- 共有機能…友達の解釈や学習方法を選択し、自分の解釈に取り入れることができるようにする。
- 編集機能…ペイントソフトで人物関係図や文章構成図を作成し、対話で活用できるようにする。

○ 「読むこと」における ICT の活用

保存機能	共有機能	編集機能
<p>導入段階で前時までの学習を見返すことで、本時のめあてをもつことができるようにする。</p> 	<p>展開段階で友達の解釈を選択することで、自分の解釈を付加・修正・強化することができるようにする。</p> 	<p>展開の後段で解釈を関係図に表すことで、友達と考えを深めることができるようにする。</p> 